

安全・高品質なマダイづくり！ ～大谷漁協タイ部会のブランド化への取り組み～



高知市丸の内
高知県海洋局
発行人 久保田寿一
編集人 海洋企画課
定 価 無料

消費者の養殖魚に対するイメージは、依然として否定的な意見が多数を占めますが、実際にはワクチンや人工飼料の普及により、品質や安全性の確保はもとより、環境への配慮も進んできました。

一方で輸入水産物の増大などにより、養殖魚の単価は生産原価を割るほどまでに下落しており、養殖業の経営は悪化の一途をたどっています。

このような状況の中、県内のいくつかの生産者グループでは、効率的な経営を目指すと同時に、消費者に信頼されるマダイづくりの取り組みを始めています。

今回は、消費者に信頼される養殖産地を目指して活動する、大谷漁協タイ部会の取り組みをご紹介します。

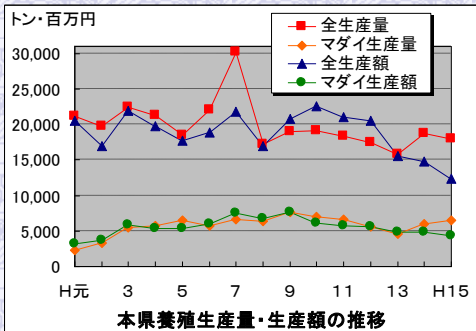
■養殖業の現状

本県の養殖業は、昭和30年に野見湾でのブリ飼育が発祥とされており、その後、浦ノ内湾、宿毛湾へ拡がりました。

現在では、ブリ、カンパチ、マダイがそれぞれ5千トンほど生産され、この3魚種で全生産量の約9割を占めています。生産量は全国では中位ですが、これら3魚種の主要な産地の一つとなっています。

また意外なところでは、県内でもマグロやサバまでが養殖されており、皆さんも知らない間に口にしているかも知れません。

この様に重要な地位を占める養殖業ですが、輸入水産物の増大や量販店主導の価格形成等により、養殖魚の価格は低迷を通り越して「暴落」の様相を呈しており、特に近年では生産量は増加しているにもかかわらず生産額は減少するという状況にまで悪化しています。



■このままでは...

大谷漁協タイ部会は、このような状況を打開しようと平成15年7月に結成され、まず高品質なマダイづくりに取り組みました。部会独自の飼育マニュアルを作成し、これに基づいた飼育を行うとともに、毎月1回の魚体測



マダイの体重、体長、体色測定

定を行いました。得られたデータは、漁業指導所等が分析し、各漁業者との個別面談を通じて効率的な給餌方法への改善に役立てています。さらに、蓄積したデータに加え、与えた飼料や飼育環境のデータも含めてインターネット上で公開する準備も進めています。また、毎月部会を開催し、飼料メーカーや経営指導協会の担当者や講師に招いて飼育技術や経営に関する研修を行ったり、他産地や出荷市場への視察、あるいは他産地の魚との食味比較を行うなど、その活動も拡がりを見せてきています。

■成果は徐々に

出荷先である市場担当者からは、確実に品質は向上したとの評価を受けており、量販店からの指名買いで魚価が向上した部会員も出てきました。さらに、これらのことへ刺激

漁協合併を推進しましょう

- 購買は漁協を利用しましょう
- 預金、公共料金は信漁連へ

を受けた部会員自らが市場担当者に点数をつけるよう依頼し、その評価をもとにさらに改善を図っていくなど、意欲的な活動につながっています。

また、給餌方法の改善効果も現れ始め、飼育コストの半分を占める餌料費も着実に削減されてきています。

■ここからが正念場

一定の評価は得られるようになってはきたものの、部会内での品質の統一や一部の部会員の脱落、あるいは新たな販売ルート確保など、課題はまだ山積しています。

しかし「消費者に信頼される大谷のマダイづくりを目指す」という部会員の意識が原動力となり、苦しい状況の中でも取り組みが継続されています。安全・安心・高品質なマダイを提供して消費者の信頼を得るため、さらなる継続と新たな展開に期待しています。

※養殖に関する用語解説については、海洋局ホームページ「魚類養殖業」へアクセス！

漁業経営のことなら、今すぐお電話を！

専門アドバイザーが、漁業経営、流通改善について無料でご相談に応じます。まずはお電話を！

● 漁業経営指導協会 tel 088-825-3980
● 上原アドバイザー tel 090-1570-4904

【コラム】「地産地消の効果」

本県の水産業は数少ない県際収支がプラスの基幹産業である一方、県内消費水産物の6割が県(国)外産である。実はこの県外産の価格は、県内産に比して割高な流通コストを内包している。つまり同じ価格なら県内産の方がお買い得ということである。さらに地元産は生産者の顔が見える安心というおまけまで付く。「地方の時代」に合致した地産地消の進展に期待する。



市場担当者からは評価や要望も

【編集後記】
仕事がある程度夏にはある。しかし、息子がすくってきた金魚はなぜか長生きさせられない。「またお墓参りせないかん〜!」息子の一言に親父の威厳は脆くも... (T.T)